

重装備にマスクで通勤

～大変だったお父さん～

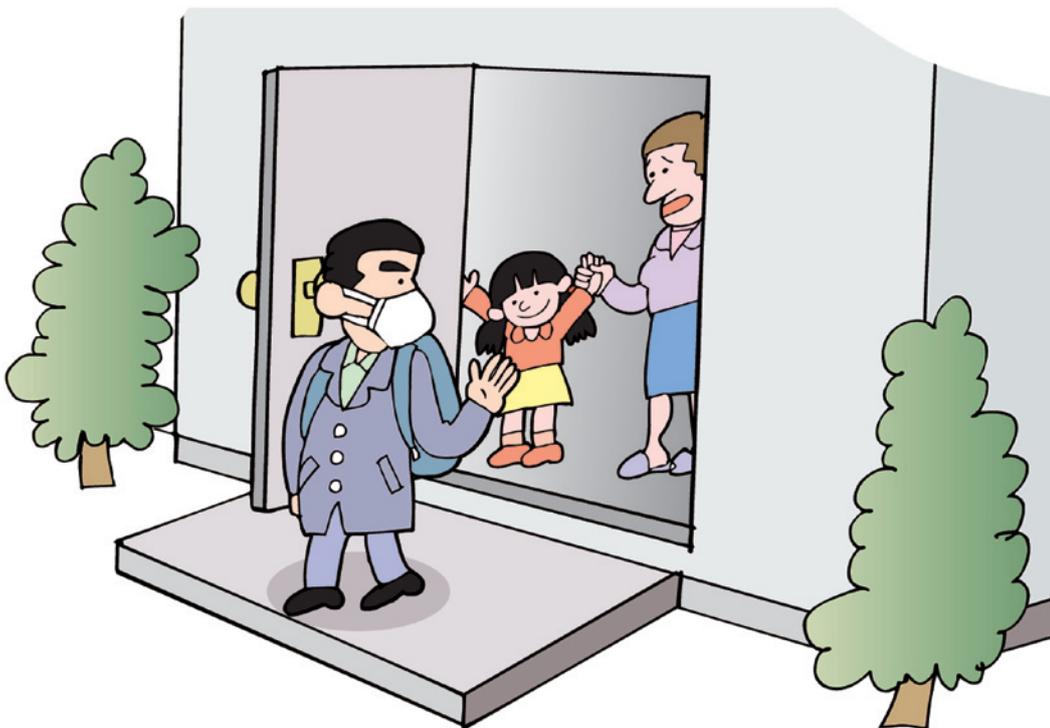
（神戸市 20代 女性 学生）

地震からしばらくすると、お父さんがこれまでと違う格好で出かけるようになりました。重装備でリュックをしょって、ごついマスクをかけていました。

町はまだ、煙とかガレキのホコリとかがひどくて、マスクをせずに歩ける状態ではなかったようです。途中でマスクを配っていたところもあるとかで、毎日いろいろなマスクをして出かけていました。

それまでは、給食当番がつけるような普通のマスクしか見たことがなかったから、仮面ライダーみたいな形をしたマスクを見た記憶が強烈に残っています。

お父さんはそれまでは電車で通勤していたけど、駅がやられていたから、途中から歩きとバスで行っていたようです。私は小さくて詳しい事情はわかりませんでした。が、「お父さんって、大変なんだな」と思っていました。



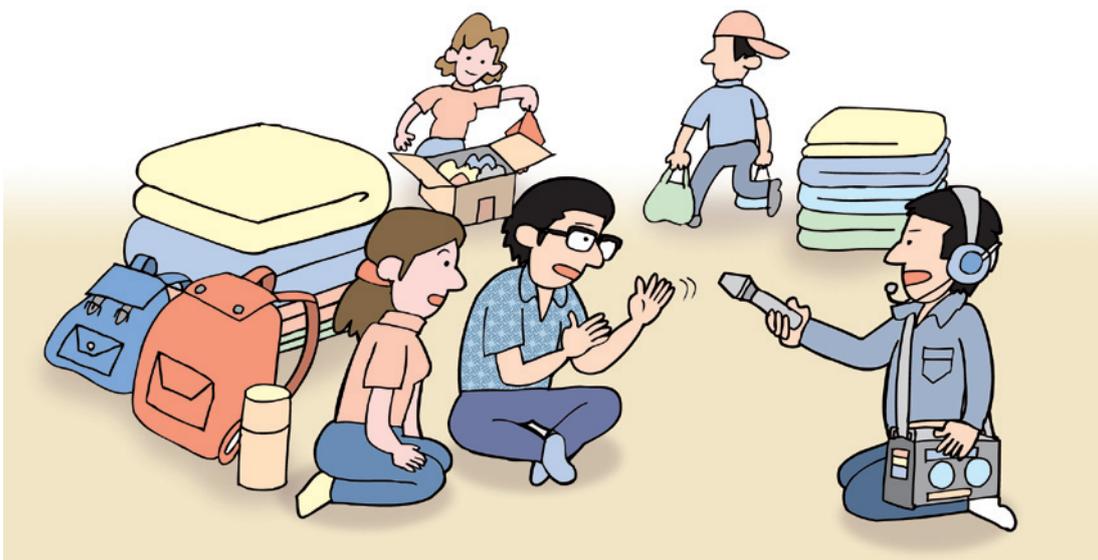
人の目が負担だった避難所生活

(栗原市 60代 男性)

私たちが避難したところは、役場の向かい側にある多目的建物でした。54畳の日本間が3つに仕切られて、寝るところと食べる場所と、あとは日中、たむろっているというのをおかしいんですが、ロビーみたいなところがありました。寝る場合も、いびきがうるさくて迷惑だという人は、体育館のほうの板の間に仕切りをつけて、そっちのほうで盛大にいびきをかいてもらったという具合。

避難所生活というと、人の目のほうが多いんですよね。ボランティアの方々とか市や県の職員とか、われわれよりかえってサポートの人たちのほうが多いです。やっぱり、人の目が自分たちにとってはいちばん疲れたなという感じです。

でも、ひと山全体が私たちの地区なので、全員仲間なんです。みんなでそのまま下りてきたもんですから、チームワークがとれていますので、他人とはいえ、気が楽でした。報道陣とかに囲まれるほうがつらかったというか、疲れましたね。



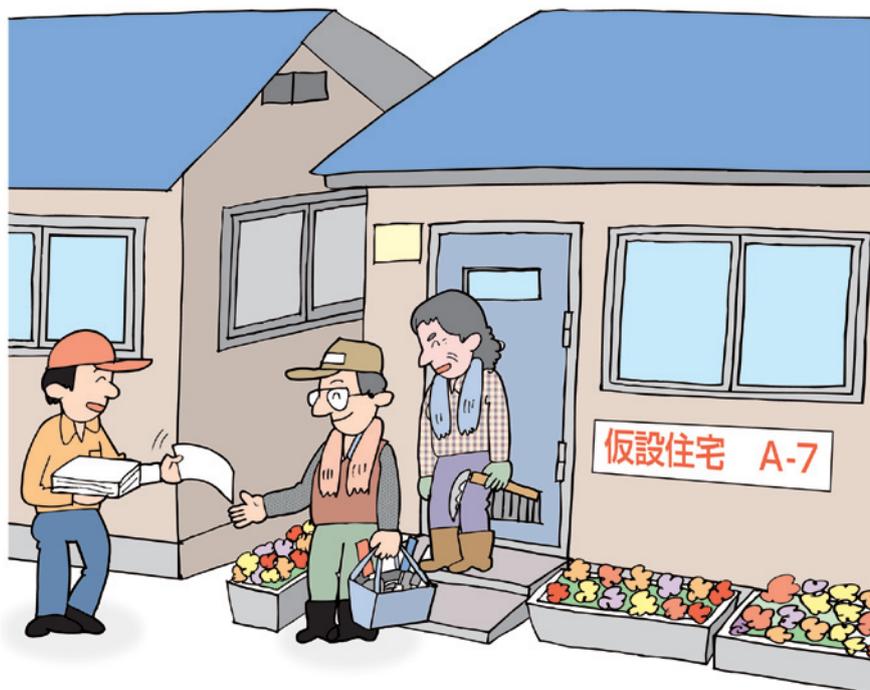
仮設のご近所がシルバー人材仲間に

(鳥取県日野町 70代 男性)

地震後しばらくして、仮設住宅に入りました。自分が昔役場におった関係で、「自治会長みたいなことをしとうせ」ということで、連絡用のビラを配ったり、みんなの意見を聞いたりという役目をしていました。

良かったのは、町中のものだけじゃなくて、農業をやっている生産者も入り混じって、仮設に入ったことですね。町のものだけじゃできないことも農家の人と一緒にやればわけなくできる。そういう気持ちで仲良く過ごせました。おかげで、仮設で知り合った人たちとは、シルバー人材センターの仲間として、今でも一緒に働いています。

ただ、新築して家に帰ったけれど、タンスに転倒防止のベルトをつけているかというと、悲しいかな、つけてない人が多いのです。うちはちゃんと転倒防止をしているし、あれから10年になりますが、毎年ナップサックの中のものを取り替え、それを背負って訓練に参加しています。地震の恐ろしさを忘れてはいけませんよ。



友だちにはビデオメッセージ

～休校中に児童を訪問～

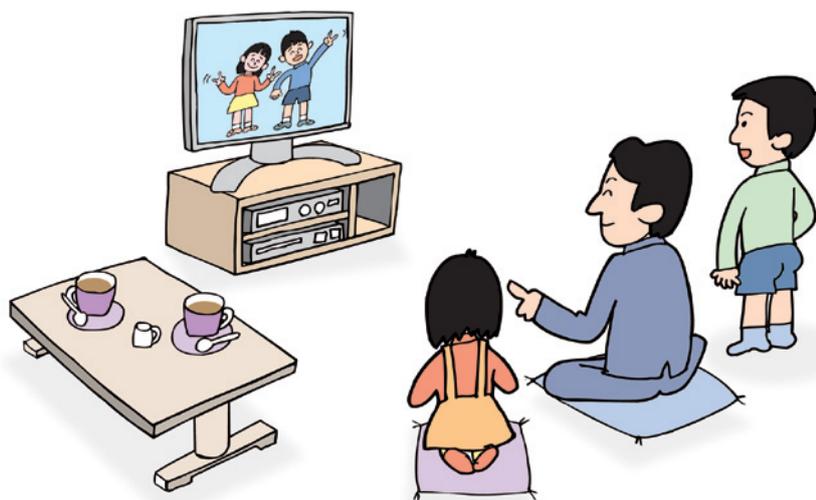
(鳥取県日野町 60代 女性 学校関係者)

地震が起きたのが金曜日で、次の日の土曜日には家庭訪問をしました。学用品を置いたまま家に帰っていますからそれを届けて、家庭がどんな様子なのかを聞き、通学路の点検をしました。

臨時休校の間は、毎日のように電話で「今、どんなことをしてる?」とか「どんな気持ち?」「お風呂に入れてる?」「心配なことはない?」というふうなことを聞きました。なんせ生徒が少ないですからね。家庭訪問も毎日のようにして、時には勉強してる子と一緒に課題を考えたりもしました。

それから、「友達へメッセージを持って行こう」ということで、子ども達の様子をビデオに収めて、みんなが元気になっているよということを知らせて回りました。

阪神・淡路大震災で心のケアが問題になりましたから、先生方もそのことを意識して行動していたと思います。



Yシャツ姿でつるはし、スコップ

～一気に仮復旧し、翌日営業再開～

(米子市 60代 男性 自動車学校職員)

その日のうちに早急に復旧しようということで、男性陣がまずつるはしやスコップを持って、液状化*でめくれた教習コースの表面のアスファルト*を剥がす作業を始めました。

「え、つるはしってどう使うんだ」っていう人がほとんどでしたけど、教え合ったりするヒマもないから、「とにかく掘りなさい」ということでね、みんな懸命にやりました。

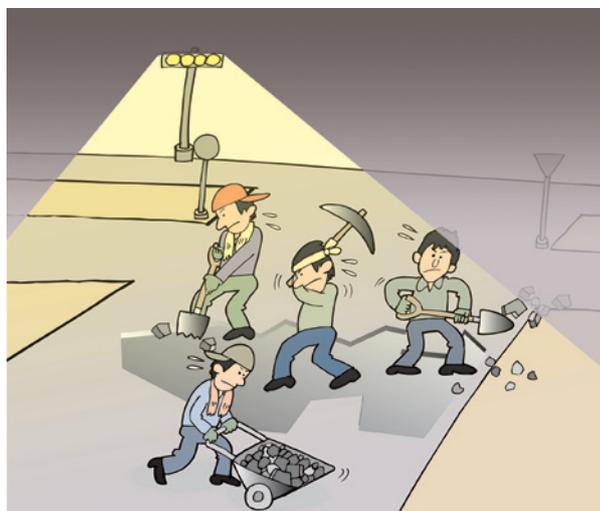
幸いに学校の方に舗装用の石が残っていたので、掘ったところにその碎石を入れて、それ用の機具もありませんから、教習所にある重い大型車とかで踏み固めました。

早めにアスファルト業者に電話をして、「今日出してもらえるか」って言ったら、「出せる」と。「遅くなってもいいか」って言ったら「今日は1日かかってもやる」って言うけん、「じゃあ頼みます」っていうことでね。その日のうちにアスファルトを持ってきてもらい、舗装を終えることができました。

10月と言ったら日が短いですからね、暗くなってからは照明をつけて作業をしました。その甲斐あって、あくる日からもう営業を再開できたのです。

*液状化とは、地震の際に地下水位の高い砂地盤が、振動により液体状になる現象のこと。

*アスファルトとは、石油精製の際に残留物として得られる黒色の固体または半固体物質のこと。砂利と一緒に混ぜて道路の舗装に使われます。



一日前プロジェクト みんなでやってみよう！

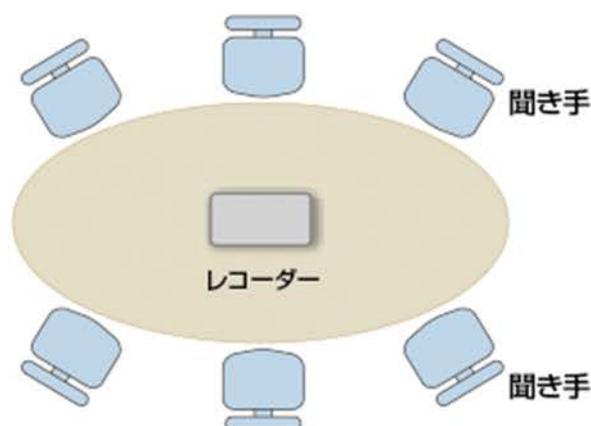
－簡単な手順を紹介します－

まず、過去の自然災害（地震、水害等）の中から対象を選ぶ

その災害の被災経験者や災害対応経験者に声をかける

みんなが集う場所と時間を設定する ※所用時間は約2時間

なごやかな雰囲気の中で、当時を思い出しながら、
体験したり感じたことを話し合ってもらおう ※話し手は、2人～4人が適当



「教訓」や「知恵」につながる部分を拾い出し、タイトルをつける

テープ起しなどを基に、拾い出した部分を「物語」にする
※物語は、300字～500字程度で、できるだけ語り口を残して編集
※物語の情景を表すイラストや写真等を添えると効果的

作成した「物語」を地域や職場のみんなに読んでもらう

気づき

共感

反省